

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

入学した生徒が、誇りをもって卒業できるよう、3年間充実した学校生活を送ることができる、自他ともに認める魅力ある学校 普通科・体育科、それぞれの学科の特色を活かしながら、学校行事や部活動、地域交流などの学校におけるすべての活動に積極的に参加し、それらを通して、実行力、判断力、自主性、協調性を備えた心技体のバランスの取れた人間力の向上をめざす。 1. 学校行事や部活動を通して、リーダーを養成する。 2. ICT 機器の活用など各教科において授業の創意工夫をし、コミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力を身につける。 3. それぞれの学科の特色を活かした学びを通して、自覚と責任を身につけ、将来の目標設定につながるようキャリア教育を実践する。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と授業改善 (1)学習意欲・態度を養い、学力の定着と向上を図るため、教育環境を整えて指導・援助する。 （生徒向け学校教育自己診断において、「分かりやすい授業が多い」「授業に積極的に取り組んでいる」の回答を R10 年度には共に 80％以上とする） 「分かりやすい授業が多い」 R5 :72.1％ R6 :57.1％ R7 :75.9％ 、 「授業に積極的に取り組んでいる」 R5 :89.6％ R6 :83.0％ R7 :81.3％ ア 基礎・基本を定着させ、さらなる学力向上に向けて、教育力の向上をめざす。 イ 学習態度・意欲を育み、自ら進んで学習する習慣を身につけ、自己実現していく態度を育成する。 ウ 各教科において、わかる授業の創意工夫や授業改善を積極的におこない、個に応じた学習指導の充実と授業の「質の向上」を通して生徒の学力の向上を図る。 (2)すべての教育活動を通して、生徒にコミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。 ア 全教科において ICT を活用した授業実践を積極的に進める。 イ 基礎学力の定着と専門分野の技量の向上に向けて、主体的に学び、意欲的に達成しようとする姿勢を育成する。また、将来の目標を定め、自己実現に向けて持続的に努力できる生徒を育てる。 ウ 物事に積極的に取り組む姿勢を育み、自分の将来の目標に向けて幅広い知識と教養を身につけさせる。 エ 社会に通用するスペシャリストの育成をめざし、演習形式の授業展開を推進し、生徒のプレゼンテーション能力の向上をめざす。 (3)生徒の進路意識を高め、進路実現に向けて努力できる生徒を育てるとともに、キャリア教育の充実と進路指導体制の充実を図る。 （生徒向け学校教育自己診断において、「適切な進路情報」 R10 年度には 90％以上をめざす R5 :96.4％ R6 :79.8％ R7 :90.0％ 「きめ細かな進路指導」 R10 年度には 80％以上をめざす R5 :74.3％ R6 :79.8％ R7 :79.3％ ア 組織的・計画的にキャリア教育および進路指導に取り組み、生徒の進路意識を高め、個々の進路目標の実現を支援する。 イ キャリア教育の充実に取り組み、自己実現に向けて、実践的な素養を養う。 ウ 魅力ある専門学科として更なる発展を図る。
2 安全で安心な学びの場づくりと豊かでたくましい人間性のはぐくみ (1)自主自律の態度を育成するとともに、自他を尊重できる心を養い、良好な人間関係の構築をめざす。 （生徒向け学校教育自己診断において、「本校に入学してよかった」の回答を R10 年度には 80％以上とする。また、「学校生活が充実している」の回答 80％以上を維持する。） 「本校に入学してよかった」 R5 :78.8％ R6 :76.0％ R7 :78.6％、「学校生活が充実している」 R5 :93.1％ R6 : 84.6％ R7 :89.1％ ア 生徒が充実感、達成感を感じ成長できる生徒ファーストの学校運営をおこなう。 イ 全教職員がカウンセリングマインドをもって生徒・保護者に対して丁寧な対応をおこない、生徒に寄り添った指導を粘り強くおこなう。 ウ 生命や人権を大切にする精神を養い、生徒一人ひとりの人権意識の向上を図り、差別や偏見、いじめを許さない安心できる学校づくりをめざす。 エ 障がいのある生徒の実態把握に努め、個々の教育的ニーズを検討し、合理的な配慮のもと必要な支援をおこない、環境整備に努める。 (2)基本的生活習慣を身につけるとともに、社会に役立つマナーへの意識を向上する。 ア 基本的生活習慣を身につけ、安心・安全に学校生活を送れるように指導援助し、自立心を育む。 イ 心身の自己管理をしっかりできるように指導し、学校の環境美化に取り組む態度を育成する。 (3)集団活動を通して、自主性や協調性を身につけ、集団の一員としての自覚を養う。 ア 団活動・部活動・HR 活動・学校行事を通して、生徒の積極性や自主性および協調性等を養う。また、これらの活動を通して、時代に沿ったリーダーの養成に努める。 イ 個々の生徒がコミュニケーション能力、協調性や責任感、考える力を身につけ、物事を広い視野で見ることができる能力を育成するとともに、望ましい集団づくりをめざす。 ウ 学校行事や学年行事を通じて、生徒が主体的に活動に取り組むことにより、積極性や協調性を身につけ、社会に貢献できる人材の育成をめざす。 エ スポーツを通して自己の人間力を高めるとともに、集団活動を通してリーダーシップ、フォロアーシップを学び、専門学科としての自覚と責任感を身につけさせる。
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり (1)地域に根づいた開かれた学校をめざし、他校種の学校園や地域との連携を充実させる。 ア 地域との様々な関わりのなかで、地域に根づいた高校として、本校の魅力を積極的に情報発信する。 イ 専門学科の特性を活かして、小中学校及び地域との連携を積極的に進め、生徒のリーダーシップ力と指導力を育む。 (2)教職員の共通理解のもと広報活動を充実させる。 ア 本校の課題解決に向けて、全教職員が互いに問題提起、意見交換をおこなえる土壌をつくる。 イ 計画的、組織的かつ積極的に広報活動に取り組み、学校 PR において、より一層の成果を上げ、本校の認知度の向上をめざす。 (3)健康で安心して働ける職場環境をつくり、汎愛高校の発展のために協働できる教職員集団をつくる。 ア 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。 イ 教職員の健康の保持・増進のために、効率よい働き方を推進する。 （令和 10 年度までに教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和 6 年度比 6 ％以上減とする。）（R6 累計 42 時間 14 分 R7 累計 39 時間 36 分） ウ 本校の現状把握および改善に至る具体的方策を検討する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成 と 授 業 改 善	（1）学習態度・意欲を育み、自ら進んで学習する習慣を身につけ、自己実現していく態度を育成する。			
	ア 基礎・基本を定着させ、さらなる学力向上に向けて、教育力の向上をめざす。	ア・年2回の公開授業期間において他の教員の授業見学を行い、自らの授業改善・授業力向上を図る。	ア・授業見学を年間4回以上行う教員を80%以上。 〔80.8%〕	
	イ 学習態度・意欲を育み、自ら進んで学習する習慣を身につけ、自己実現していく態度を育成する。	イ・生徒の学ぶ意識・姿勢の向上のため、チャイムと同時に始業の挨拶をすることを周知、徹底する。 ・家庭学習のための課題等を提示することで、授業以外での学習習慣を定着させる。 ・令和4年度以降の入学生のカリキュラムについて、より生徒の実態に合うように、教務部・カリキュラム委員会で状況の分析を行い、必要に応じて改善を図る。	イ・生徒向け自己診断において、「私は始業のベルが鳴ると、教室で着席している」の項目で肯定的評価90%以上。〔96.4%〕 ・生徒向け自己診断で、「授業以外でも学習に取り組んでいる」の項目で昨年度の水準を上回る。〔42.7%〕 ・生徒向け自己診断において、「本校は生徒の進路希望に応じた多様な選択科目が設定されている」の項目で、肯定的評価75%以上を維持する。〔90%〕	
	ウ 各教科において、わかる授業の創意工夫や授業改善を積極的におこない、個に応じた学習指導の充実と授業の「質の向上」を通して生徒の学力の向上を図る。	ウ 教科としての目標を設定し、指導方法の改善を常に図り、生徒の学力向上に結び付ける。そのため、教科会を定期的に関き、指導法や評価法について意見交換を行い、職員研修等で情報共有をする。	ウ・生徒向け自己診断において「分かりやすい授業が多い」の項目で、肯定的評価75%以上を維持する。 〔75.9%〕	
	（2）すべての教育活動を通して、生徒にコミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。			
	ア 全教科において ICT を活用した授業実践を積極的に進める。	ア・ICT を活用した実践事例を増やし、教員間で授業活用の情報を共有できるようにする。	ア・教員の実践報告を、授業公開期間に合わせて年10回実施する。〔15回〕	
	イ 基礎学力の定着と専門分野の技量の向上に向けて、主体的に学び、意欲的に達成しようとする姿勢を育成する。また、将来の目標を定め、自己実現に向けて持続的に努力できる生徒を育てる。	イ・体育科のコース制授業スタートにおいて、ゼミ形式の演習授業を展開する。「スポーツ」を多角的な視点から考察できるように指導するとともに、1年間の学びの振り返りとしてプレゼンテーションの機会をできるだけ多くの生徒に設ける。	イ・体育科生徒の卒業論文において、質の高い論文を作成し、全生徒がプレゼンテーションを実施した発表の機会を設ける。	

府立汎愛高等学校

	ウ 物事に積極的に取り組む姿勢を育み、自分の将来の目標に向けて幅広い知識と教養を身につけさせる。 エ 社会に通用するスペシャリストの育成をめざし、演習形式の授業展開を推進し、生徒のプレゼンテーション能力の向上をめざす。 (3) 生徒の進路意識を高め、進路実現に向けて努力できる生徒を育てるとともに、キャリア教育の充実と進路指導体制の充実を図る。 ア 組織的・計画的にキャリア教育および進路指導に取り組み、生徒の進路意識を高め、個々の進路目標の実現を支援する。 イ キャリア教育の充実に取り組み、自己実現に向けて、実践的な素養を養う。 ウ 魅力ある専門学科として更なる発展を図る。	ウ・体育科の特色ある教育活動を通して、自己の将来の目標を定め、卒業後の自己実現に向けて努力する生徒を育てる。 エ・専門学科の各行事・実習において、達成感・充実感を得られるようにとともに、生徒主体で企画・運営を行い、全員がリーダーシップとフォロワーシップを意識した実習になるよう指導する。 ア・進学意識を高めるとともに、公務員講座への参加を促し、進路意識の向上につなげる。 ・看護医療コース(R6年度普通科3年)の内容充実を図るために、高大連携により早期の意識付けを図る。 イ・図書館の活用をさらに進め、自習教室・面接指導の場として卒業後の進路向けの学習センターとして機能させ、生徒の自主的・自立性の育成のための学びの場として位置付ける。 ウ 新たなカリキュラムを確実に運用し、コース制の意義を活かした教育活動をおこなう。	ウ・高大連携授業を各コース年間5回、計15回以上実施。[23回] エ・各種実習や授業におけるアンケートを実施し、リーダーシップ等に関する項目における満足度90%以上。 [3年生 キャンプ実習 100% 2年生 水泳実習 100% 3年生 卒業論文 100%] ア・公務員採用試験における合格率を60%以上とする[71.4%] ・看護医療に係る高大連携授業を、年間3回実施する。[3回] イ・図書貸し出し数において、R7年度水準を維持する。 [218冊] ウ・各コースについて、生徒の満足度80%以上を維持する。 [100%]	
2 安全で安心な学びの場づくりと豊かでたくましい人間性のは	(1) 自主自律の態度を育成するとともに、自他を尊重できる心を養い、良好な人間関係の構築をめざす。 ア 生徒が充実感、達成感を感じ成長できる生徒ファーストの学校運営をおこなう。 イ 全教職員がカウンセリングマインドをもって生徒・保護者に対して丁寧な対応をおこない、生徒に寄り添った指導を粘り強くおこなう。 ウ 生命や人権を大切にする精神を養い、生徒一人ひとりの人権意識の向上を図り、差別や偏見、いじめを許さない安心できる学校づくりをめざす。	ア・登校指導を全教職員で実施し、挨拶や身だしなみ整えることができるよう指導援助し、また集団生活におけるルールを守る態度を育て、生徒会とも連携しながら生徒の規範意識を高める。 イ・教育相談体制を整え、より一層生徒が相談しやすい環境づくりをおこなう。また、必要に応じて、SCやSSWを活用し、より生徒に寄り添った指導ができるようにする。 ウ・情報モラル講習会を通して、生徒自ら情報がモラルを守ることが出来る正しい知識を身に着ける。また、SNSの取り扱いについても細心の注意を払い自らが加害者になることのないよう情報セキュリティの意識向上に努める。	ア・生徒向け自己診断で「あいさつができる」「本校に入学してよかった」「学校生活が充実している」の回答を全て80%以上。 [90.5%, 78.6%, 83.2%] イ・生徒向け自己診断で「本校には親身に相談に乗ってくれる先生がいる」の回答が70%以上。 [87.7%] ウ・SNSに関する研修会を年間2回実施。[2回]	

府立汎愛高等学校

ぐくみ	(2) 基本的生活習慣を身につけるとともに、社会に役立つマナーへの意識を向上する。 ア 基本的生活習慣を身につけ、安心・安全に学校生活を送れるように指導援助し、自立心を育む。 イ 心身の自己管理をしっかりできるように指導し、学校の環境美化に取り組む態度を育成する。 (3) 集団活動を通して、自主性や協調性を身につけ、集団の一員としての自覚を養う。 ア 団活動・部活動・HR 活動・学校行事を通して、生徒の積極性や自主性および協調性等を養う。また、これらの活動を通して、時代に沿ったリーダーの養成に努める。 イ 個々の生徒がコミュニケーション能力、協調性や責任感、考える力を身につけ、物事を広い視野で見ることが出来る能力を育成するとともに、望ましい集団づくりをめざす。	・いじめの未然防止に向け、生徒への講話を通じて人権意識を向上させる。いじめアンケートを通していじめの実態把握・早期発見に努めるとともに、あらゆる差別問題が重大な人権侵害であることを確認し、人権に関して理解を深める。また、生徒に「命の大切さ」を実感させ、「生きる」ことの意味を一人ひとりが考えることができる研修会を実施する。 ア・基本的生活習慣の確立を促し、年間5回の遅刻防止強化週間を設けるとともに、年間を通して特別な理由のない遅刻者の減少に取り組む。 イ・健診等を通じて生徒の健康管理意識を向上させるとともに、自ら積極的に自分の体について管理・理解させるように指導する。 ア・生徒会活動の充実を図り、計画的に会議の運営と広報活動に努め、生徒の主体的な行事となるよう指導する。 イ・団活動を行うことで、学年相互の人間関係の築き、生徒間の相互理解を深める。また、年間の活動を通して、生徒自らが考え行動する姿勢を養う。	・生徒向け自己診断で「私はまわりのひとに思いやりをもって接している」の回答 90%以上を維持。 [90.1%] ア・年間遅刻数の延べ人数を昨年度より減少させる。 [2, 102] イ・健診で受診勧告を受けた生徒の 40%以上が事後処置を行う。 [38.6%] ア・生徒議会の内容を精査し年間4回以上計画的に実施。 [4回] イ・生徒向け自己診断における肯定的な回答が 80%以上。 [83.2%]	
	(1) 地域に根づいた開かれた学校をめざし、他校種の学校園や地域との連携を充実させる。 ア 地域との様々な関わりのなかで、地域に根づいた高校として、本校の魅力を積極的に情報発信する。 イ 専門学科の特性を活かして、小中学校及び地域との連携を積極的に進め、生徒のリーダーシップ力と指導力を育む。	ア・地域連携や校種間連携を通じて、生徒の社会性や能力を伸ばす。また、HP により本校の魅力・さまざまな取組みを発信する。 イ・親子武道教室の開催や鶴見区民まつりへの協力を通して地域との連携を深める。また、生徒主体のイベントにすることで、生徒のリーダーシップやフォロワーシップを養う。	ア・HP の閲覧数について令和6年度水準を維持する。 [254 回/日] イ・「積極的に取り組めた」と回答する生徒が 80%以上。 [100%]	

	（２）教職員の共通理解のもと広報活動を充実させる。 ア 本校の課題解決に向けて、全教職員が互いに問題提起、意見交換をおこなえる土壌をつくる。 イ 計画的、組織的かつ積極的に広報活動に取り組み、学校PRにおいて、より一層の成果を上げ、本校の認知度の向上をめざす。 （３）健康で安心して働ける職場環境をつくり、汎愛高校の発展のために協働できる教職員集団をつくる。 ア 教職員の健康の保持・増進のために、効率よい働き方を推進する。 イ 本校の現状把握および改善に至る具体的方策を検討する。	ア・学校運営上の課題解決に向けて、各分掌、委員会のつながりを強化する。 イ・学校説明会・教員対象説明会・体験入学を継続して行い、本校へ来校する中学生・保護者の人数を確保する。 ア 安全衛生委員会を中心に、教職員の健康状態並びに勤務状態を把握するとともに環境整備に取り組み、全教職員が健康で良好な職場環境で勤務できるようにする。 また、「大阪府における部活動等の在り方に関する方針」に則り、部活動顧問が過度な負担にならないよう取り組んでいく。 イ 学校全体の現状把握および改善に至る具体的方策を検討し、各部や学年と連携して教育活動の推進を図る。	ア・教職員向け自己診断の「分掌内、分掌間で連携をとっている」の項目で肯定的評価を70%以上。 [76.6%] イ・参加する生徒保護者数が昨年度を上回る。 [学校説明会 665 名 体験入学 202 名] ア・年間の時間外在校時間が720 時間を超える教職員をゼロにする。 ・長時間勤務対象者の減少。1 月までの平均時間外勤務時間を45 時間以内。 [39 時間 36 分] イ 教職員向け自己診断の「教職員の共通理解のもと教育活動の改善に努める」が、70%以上。 [68.1%]	
--	---	---	---	--